

「栃木しゃも」の能力向上に向けた雌系交雑種の検定試験

「栃木しゃも」は当场が開発した肉用鶏で、肉質が良いプレノール（フランス原産）の雄に卵肉兼用種のロードアイランドレッド種（アメリカ原産）の雌を交配した二元交雑種（ F_1 ）を母方とし、肉の旨さで定評のあるしゃも（タイ原産）を父方とした三元交雑により生産しています。

そこで、栃木しゃもの能力向上と安定供給を図るため、雌系の交雑種におけるロードアイランドレッド種の利用系統が与える影響について調査を行いました。その結果、

1. 産卵性は、50%産卵到達日齢で兵庫系交雑種の方が早い結果となりましたが、平均卵重では大きな差は見られず、53g 卵重到達日齢及び種卵生産性ではTG系交雑種（当场保有）の方が優れた傾向を示しました。（表1）
2. 発育性は育成率、生存率で兵庫系交雑種がやや低い傾向にあったものの、両試験区とも良好でした。また平均体重は兵庫系交雑種がTG系交雑種を上回り増体性に優れた特性が見られました。（表2）

表1. 系交雑種の産卵性

系統名	総産卵数 ÷ 延羽数				
	50% 産卵 到達日 (日)	53g 卵重 到達日齢 (日)	産卵率 (25~64週齢) H・D %	種卵 (25~64週齢)	
				適格率	数 / 羽 個
プレノール×TG系 F_1	160	171	61.1	92.5	154.2
プレノール×兵庫系 F_1	149	183	48.1	91.6	120.7

表2. 系交雑種の発育性

系統名	育成率 %	生存率 %	平均体重 g			
	(0~25週齢)	(25~64週齢)	7週齢	10週齢	25週齢	64週齢
プレノール×TG系 F_1	97.0	92.0	818.0	1310.8	2701.1	3584.2
プレノール×兵庫系 F_1	92.5	88.9	868.6	1355.1	2835.5	3796.3

以上のことからTG系交雑種は種卵生産性に優れた傾向を示し、兵庫系交雑種は増体性に優れた特性を持つことが分かりました。雌系交雑種的能力としては、産卵性をもっとも重視されるべきだと考えられますので、「栃木しゃも」の母系としてはTG系交雑種が適切であると考えられました。今後はさらに異なるロードアイランドレッド種の系統を導入し、引き続きより生産性の高い系統を明らかにし、「栃木しゃも」の経済性の向上を図っていく予定です。

（中小家畜研究室 野口宗彦）